

どんぐりに虫がいるわけ

名前

音読サイン

公園で拾ったどんぐりを、ふくろに入れてしばらく置いておくと、白い虫が出てくる場合があります。よく見ると、実に小さな丸い穴が開いています。あの穴から、虫が入りこんだのでしょうか。

この虫は、ドングリゾウムシの子供です。親の虫は、細長い口を持っています。まだ木についているやわらかい実（み）に、その口で穴をあけ、中にたまごを産みつけます。

たまごからかえった子どもは、実の中身を食べて大きくなります。やがて実が地面に落ちるころ、自分の力で外がわに穴をあけ、はい出して土の中にもぐります。

つまり、あの丸い穴は入り口ではなく、出口だったのです。虫は、どんぐりがまだ木の上にあるうちから、実の中でしずかに育っていたのです。

（１）「かえった」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア もとのところへもどった
イ 形がすっかりかわった
ウ 水にぬれてしまった
エ たまごから生まれた

（２）どんぐりに開いている丸い穴は、何だと説明されていますか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 虫が入った入り口
イ 虫が出ていった出口
ウ えだにつくための穴
エ 雨水がたまる穴

（３）どんぐりの実にたまごを産みつけるのは、何という虫ですか。文しよから八字で書きぬきましょう。

（４）どんぐりの丸い穴は、どのようにしてできたのですか。文しよの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント

「あけた。」の形でおわらせる。
「中」という言葉を使う。

こたえ（うら）

- 問1 エ
問2 イ
問3 ドングリゾウムシ
問4 （例）実の中で育った子どもの虫が、外へはい出すために、自分であけた。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈中で育った虫〉と〈外へ出る〉が書けていれば○。

3-10-1-1 v2

3年 説明文

二人三きやく

名前

音読サイン

運動会の二人三きやくの練習で、ぼくはゆうとと組むことになった。ゆうとはせが高く、足も長い。ならんで立つと、ぼくの頭は、ゆうとのかたのあたりまでしかとどかなかった。

内がわの足を、赤いぬのしばる。走り出すと、すぐに足がもつれて、その場で止まってしまった。もう一度やっても同じだった。ぼくは、走るのがはやすぎるゆうとのせいだと思った。

見ていた先生が、「声を出してごらん。」と言った。ゆうとが「いち、に。」と大きく言い、ぼくもいっしょに言ってみる。ふしぎなことに、足がそろって前に出た。三步、四歩、五歩と進む。

止まらずにゴールまで行けたとき、ゆうとが手を上げた。ぼくはその手を強くたたいた。せの高さはちがったままなのに、走るはやさだけが、ぴったり合っていた。

(1) 「もつれて」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア からまっとうまく動かなくなつて
イ 力がつよくなつて
ウ 声が出なくなつて
エ まっすぐにのびて

(2) 二人の足がそろうようになったのは、なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア 声を出してかけ声をそろえたから

イ ぬのを取ったから
ウ 先生がいっしょに走ったから
エ ゆうとがおそく走ったから

(3) 二人の足をしばったものは何ですか。
文しようから四字で書きぬきましょう。

(4) 二人の走るはやさが合ったのは、なぜですか。
文しようの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「ゝから。」でお知らせ。
「声」という言葉を使う。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ア

問3 赤いぬの

問4 (例) 二人で
いっしょに「い
ち、に。」と声を出
して、足をそろえ
て進んだから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとび
ったり同じなら○。
問4は〈声を出す(か
け声)〉と〈足がそろ
う〉が書けていれば
○。

3-10-1-2 v2

3年 物語文

かきがしぶいわけ

名前

音読サイン

秋^{あき}になると、かきの木^きにだいたい色^{いろ}の実^みがなります。よくじゆくした実^みはあまいの^なに、まだかたい実^みをかじると、口^{くち}の中^{なか}がしぶれるようなしぶさが広^{ひろ}がります。どうしてこんなにちがうのでしう。

しぶさの^なとは、実^みの中^{なか}にある「し^みぶ」^{みず}とよばれる^みものです。しぶは、水^{みず}にとけてい^かるときだけ、舌^{した}でしぶい^{かん}と感じ^{かん}られます。かたい実^みには、これがたくさんふくま^みれてい^みます。

実^みがじゆくして^かくると、しぶは水^{みず}にとけない形^{かたち}にか^なわります。中^{なか}にのこ^なってはいる^なのですが、とけてい^なないので、しぶさ^{かん}を感じ^{かん}ることができ^{かん}ません。しぶが消^きえた^{かん}のでは^{かん}なく、感じ^{かん}られ^{かん}なくな^{かん}った^{かん}のです。

では、なぜはじめはしぶい^なのでしう。中^{なか}のたね^なが育^そつ前^{まえ}に食^たべられ^たては、こまる^なから^なです。たね^ながで^なきる^なころに実^みはあま^なくなり、鳥^{とり}に運^{はこ}んで^{はこ}もら^{はこ}うので^{はこ}す。

(1) 「じゆくした」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 地面に落ちた

イ 食べごろになった

ウ しぼんでかれた

エ 二つにわれた

(2) かきの実が、はじめはしぶいのはなぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 水が足りないから

イ 鳥がしぶさをこのむから

ウ 日が当たらないから

エ たねが育つ前に食べられないようにするため

(3) じゆくすと、しぶは何にとけない形にかわりますか。文しうから一字で書きぬきましょう。

(4) じゆくした実がしぶくないのは、なぜですか。文しうの言葉を使つて書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「ゝから。」でお知らせる。

「しぶ」という言葉^{ことば}を使つ。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 エ

問3 水

問4 (例) しぶが水にとけない形にかわって、しぶさを感じられなくなるから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびつたり同じなら○。

問4は〈とけない形〉と〈感じられない〉が書けていれば○。

3-10-1-3 v1

3年 説明文

コンパスのしくみ

名前

音読サイン

コンパスを使うと、どこもゆがんでいない、まるい形がかけます。手でかいた丸は、どこかがくずれてしまうのに、コンパスならきれいな円になります。この道具には、どんなしくみがあるのでしよう。

コンパスには、二本の足があります。かくときは、まず針の先を紙にさして動かさないようにします。もう一つの足にはえんぴつがついていて、そちらだけをぐるりと回します。

このとき、二本の足の開きぐあいは、はじめから終わりまで変わりません。だから、えんぴつの先は、針をさしたところからいつも同じ長さのところを通ります。その長さが半径、針の先が中心です。

コンパスは、長さをうつしとる道具でもあります。二つの点の長さに開けば、べつの場所に同じ長さをうつせます。円がきれいなのは、同じ長さを守りつづけるからです。

(1) 「ゆがんで」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 小さくなって
イ こくなくなって

ウ 形がくずれて
エ まっすぐになって

(2) コンパスでかいた円が、どこも同じふくらみになるのはなぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア えんぴつの先が細いから
イ 紙が白いから
ウ 二本の足の開きぐあいが変わらないから
エ ゆっくり回すから

(3) 針をさしたところから、えんぴつの先までの長さを何といますか。文しよから二字で書きぬきましょう。

(4) コンパスは、円をかくほかにどんなことができますか。文しよの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント

「長さ」という言葉を使う。

「〜ことができる。」の形で書く。

こたえ (うら)

問1 ウ

問2 ウ

問3 半径

問4 (例) 二つの点の長さに開いておいて、べつの場所に同じ長さをうつしとることができる。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈同じ長さ〉と〈うつす (うつしとる)〉が書けていれば○。

3-10-1-4 v2

3年 説明文

さんじゅうきゅう
三十九このどんぐり

名前

音読サイン

公園でどんぐりを拾った。ぼくたちは
シートの上に集めて、一つずつ数えた。
ぜんぶで三十九こ。「五人で同じ数ずつ
分けよう。」と、みちるが言った。

一人七こずつ配っていくと、シートの上
に四こ残った。「じゃんけんで決めよう。
」。「たくさん拾った人が、多くもらう
べきだ。」だんだん声が大きくなって、
だれも手を出せなくなった。

だまっていたあきらが、そこで口を開
いた。「のこりは、木に返さないか。」ぼ
くたちが顔を上げると、あきらは四こを
ひろって、どんぐりの木のねもとになら
べた。「ここから落ちてきたんだから。」

だれも文くを言わなかった。かえりぎ
わ、ぼくはねもとの四こをもう一度見
た。同じ数ずつ分けられなかった四こだ
けが、みんなのものになったような気が
した。

(1) 「ねもと」の意味に合うものを一つえらび、
記号に○をつけましょう。

- ア えだの先
- イ 葉のうらがわ
- ウ 木のとっぺん
- エ 木の根のあたり

(2) 残った四このどんぐりを、あきらはどうしようと
言いましたか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア じゃんけんで分ける

- イ どんぐりの木のねもとに返す
- ウ 先生にわたす
- エ みちるにあげる

(3) 拾ったどんぐりは、ぜんぶで何こでしたか。
文しようから四字で書きぬきましょう。

(4) さいごに「ぼく」は、四このどんぐりをどう
思いましたか。文しようの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント

「四こ」「か」「のこり」という言葉を使う。
「〜気がした。」の形で書いてよい。

こたえ (うら)

- 問1 エ
- 問2 イ
- 問3 三十九こ
- 問4 (例) 分けられなかった四こだが、みんなのものになったような気がした。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとび
ったり同じなら○。
問4は 〈みんなのもの〉
が書けていれば○。

3-10-1-5 v2

3年 物語文

月がついてくるわけ

名前

音読サイン

夜、車に乗って走っていると、月がずっとついてくるように見えます。角をまがっても、坂を下っても、月は同じところにうかんでいます。いくら走っても、いっこうに近づきません。

そばにあるものを見てみましょう。道ばたの電柱は、少し進んだだけで、見える向きが大きく変わります。だから、すぐに後ろへ流れていってしまいます。

月はとうでしょう。月は、地球からとても遠いところにあります。車で何キロ走ったところで、月の見える向きは、ほとんど変わりません。ですから、いつまでも正面にるように見えるのです。

つまり、月がついてきているのはありません。近くのものだけが後ろへ流れていくので、動かない月が、いっしょに進んでいるように見えるのです。

(1) 「いっこうに」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

- ア すこしも
- イ ときどき
- ウ ゆっくりと
- エ まっすぐに

(2) 月がついてくるように見えるのは、

なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア 月が遠くて見える向きがほとんど変わらないから
イ 月が車をおいかけているから
ウ 月が光っているから
エ 道がまっすぐだから

(3) 少し進んだだけで、見える向きが大きく変わるものは何ですか。文しよから二字で書きぬきましょう。

(4) 近くのものとは月とでは、どんなちがいがありますか。文しよの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「が、」の形で、くらべて書く。
「向き」という言葉を使う。

こたえ (うら)

- 問1 ア
- 問2 ア
- 問3 電柱
- 問4 (例) 近くのものは少し進むだけで見える向きが大きく変わるが、月は遠いのでほとんど変わらない。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈近くは大きく変わる〉と〈月はほとんど変わらない〉の両方が書けていれば○。

3-10-2-1 v1

3年 説明文

運動会の玉入れ

名前

音読サイン

運動会で、わたしは玉入れの玉を数える係になった。かごの下に立って、玉を一つずつ取り出しながら、みんなといっしょに数を言うのだ。大ぜいの前で声を出すのは、得意ではない。

本番になった。白組のかごが下ろされ、わたしは玉を持ち上げた。「いち。」出した声は、自分でもおどろくほど細かった。運動場は広くて、声はすぐに消えてしまいそうだった。

ところが、二つ目の玉で「に。」と、たくさんの方が重なった。見ると、赤組の子も白組の子も、いっしょに数えている。「さん。」「し。」声はどんどん大きくなり、わたしの声はその中にとけていった。

「二十七。」さいごの玉を高くかかげると、運動場じゅうで手をたたく音がした。数えたのは、わたし一人ではなかった。声を出すのがこわかったことを、そのときだけわすれていた。

(1) 「細かった」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

- ア 早口だった
- イ 小さくて弱かった
- ウ 高くひびいた
- エ 長くつづいた

(2) 「わたし」の声が気にならなくなったのは、なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

- ア マイクを使ったから
- イ 玉が少なかったから
- ウ 係を交代したから
- エ まわりの子もいっしょに数えてくれたから

(3) さいごに数えた玉の数は、いくつでしたか。文しよから三字で書きぬきましょう。

(4) 数えおえたとき、「わたし」はどんな気もちでしたか。文しよの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント
はじめの気もちと、おわりの気もちを両方書く。
「声」という言葉を使う。

こたえ (うら)

- 問1 イ
- 問2 エ
- 問3 二十七
- 問4 (例) みんなといっしょに数えたので、声を出すのがこわかったことをわすれていた。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈いっしょに数えた〉と〈こわさをわすれた〉の両方が書けていれば○。

3-10-2-2 v1

3年 物語文

トンボが空中で止まれるわけ

名前

音読サイン

トンボが飛んでいるところを見ているとき、ときどき、空中でぴたりと止まります。まるで、見えない糸でつり下げられているようです。ほかの虫には、なかなかできないことです。

トンボのはねは四まいあります。前に二まい、後ろに二まいです。ちょうやちは、前と後ろのはねをつなげて、いっしょに動かします。ところがトンボは、四まいを別々に動かすことができます。

前のはねを下げるとき、後ろのはねを上げる。このように時をずらして動かすと、体をうかせる力だけがはたらいで、前へ進む力は打ち消されます。だから、その場にとどまっていられるのです。

空中で止まると、目の前を通るえものを、じっと待つことができます。四まいのはねは、トンボがえものをとらえるための、大切な道具なのです。

(1) 「打ち消されます」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 二ばいになります
イ 音が出ます

ウ なくなってしまう
エ 強くなります

(2) トンボが空中で止まっていられるのは、なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア はねが大きいから

イ 体がとても軽いから
ウ 四まいのはねを別々に動かせるから
エ 風がふかないから

(3) トンボのはねは何まいありますか。文しゅうから三字で書きぬきましょう。

(4) トンボは、どのようにはねを動かして空中で止まりますか。文しゅうの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「前のはね」「後ろのはね」の両方を使う。
「動かす」の形でおわらせる。

こたえ (うら)

- 問1 ウ
問2 ウ
問3 四まい
問4 (例) 前のはねを下げるときに後ろのはねを上げるというように、時をずらして動かす。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈前のはねと後ろのはね〉と〈時をずらす (別々に)〉が書けていれば○。

3-10-2-3 v1
3年 説明文

ボールがはずむわけ

名前

音読サイン

ドッジボールを地面に落とすと、高くはね上がります。ところが、空気のぬけたボールを落としても、ぺたりと落ちるだけです。中の空気のあるなしで、どうしてこんなにちがうのでしょうか。

ボールが地面にぶつかったしゅんかん、当たったところがへこみます。すると、中に入っていた空気は、せまいところにおしこめられます。ぎゅっとおしちぢめられた空気ができるのです。

おしちぢめられた空気は、もとにもどろうとします。その力がボールの内がわをおして、へこんだところをふくらませます。このときボールは地面を強くおし返し、上へはね上がるのです。

空気の少ないボールは、へこんでもおしちぢめられる空気がありません。もどろうとする力が弱いので、はずまないのです。ボールがはずむのは、中にある空気のはたらきなのです。

(1) 「しゅんかん」の意味に合うものをつつえらび、記号に○をつけましょう。

ア とても長い時間

イ しずかなところ

ウ 高いところ

エ とてもみじかいつき

(2) ボールがはね上がるのは、何の力によるものですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア 地面のかたさ

イ おしちぢめられた空気がもとにもどろうとする力
ウ なげた手の力

エ 風の力

(3) ボールが地面にぶつかると、当たったところはどうか。文しうから五字で書きぬきましよう。

(4) 空気の少ないボールがはずまないのは、なぜですか。文しうの言葉を使って書きましよう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「ゝから。」でおわらせる。

「空気」という言葉を使う。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 イ

問3 へこみます

問4 (例) 中でおしちぢめられる空気がなく、もとにもどろうとする力が弱いから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈空気がない〉と〈もどる力が弱い〉が書けていれば○。

3-10-2-4 v1

3年 説明文

重さ当てゲーム

名前

音読サイン

外で遊べない昼休み、そうだが「重さ当てゲームをしよう。」と言い出した。教室のうしろには、先生からかりてきたばかりが置いてある。じゅんばんにランドセルを持ち上げて、重さを当てるゲームだ。

はじめに、そうたがわたしのランドセルを持った。「これはニキロ。」つづけて、わたしも持ってみる。ずしりと来たけれど、ニキロもある気はしなかった。「一キロぐらいだと思う。」

はかりの目もりは、一キロ二百グラムを指した。そうたはくやしがつた。でも、わたしも当たったわけではない。二百グラムもちがっていたのだから。

何回かやるうちに、気がついたことがある。ゆっくり持ち上げると重く感じ、いきおいよく持つと軽く感じるのだ。手はあてにならない。だからはかりがあるのだと、そのときはじめて思った。

(1) 「ずしり」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけよう。

ア おもみが手につたわるようす

イ かるくてうくようなようす

ウ つめたく感じるようす

エ 大きな音がひびくようす

(2) はかりではかったランドセルの重さは、どれだけでしたか。一つえらび、記号に○をつけよう。

ア 一キロ二百グラム

イ 一キロ

ウ ニキロ

エ 二百グラム

(3) 重く感じるのは、どのように持ち上げたときですか。文しよから四字で書きぬきましよう。

(4) 「わたし」が、だからはかりがあるのだと思ったのはなぜですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

書くときのポイント

「くから。」でおわらせる。

「手」という言葉を使う。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ア

問3 ゆっくり

問4 (例) 手で持つと、持ち上げるはやさで重さの感じがかわり、あてにならないから。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈手はあてにならない〉が書いていれば○。

3-10-2-5 v2

3年 物語文

くもの糸が切れないわけ

名前

音読サイン

朝の草むらで、くもの巣が光っている
ことがあります。糸は、かみの毛よりず
っと細く見えます。それなのに、虫がい
きおいよくぶつかっても、巣はやぶれま
せん。

くもの糸を調べると、同じ太さの鉄の
糸とくらべても切れにくいと言われてい
ます。細いのに、鉄より強いのです。
強いだけではありません。くもの糸
は、引っぱられるとよくのびます。虫が
ぶつかったときには、のびながら、その
いきおいを少しずつ受け止めます。かた
いものは、いきおいをまともに受けて折
れてしまいますが、のびる糸は、力をに
がすことができるのです。

巣のたて糸はじょうぶで、横糸にはね
ばりけがあります。役わりのちがう二し
ゆるいの糸を組み合わせ、くものはあ
の巣を作っています。同じような糸を作
うとする研究が、今もつづいています。

(1) 「にがす」の意味に合うものを一つえらび、
記号に○をつけましょう。

ア ためておく

イ 外へ出して弱める

ウ 二つに分ける

エ もっと強くする

(2) くもの糸が切れにくいのは、強いことのほかに
どんなせいしつがあるからですか。一つえらび、
記号に○をつけましょう。

ア とてもかたいこと

イ まっ白であること

ウ みじかいこと

エ 引っぱられるとよくのびること

(3) くもの糸の強さは、何とくらべられていますか。
文しよから三字で書きぬきましょう。

(4) くもの巣が虫のいきおいでやぶれないのは、
なぜですか。文しよの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--

書くときのポイント

「ゝから。」でお知らせる。

「のびる」という言葉を使う。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 エ

問3 鉄の糸

問4 (例) 糸がの
びながら、ぶつか
ったいきおいを少
しずつ受け止め
て、力をにがすか
ら。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとび
ったり同じなら○。
問4は〈のびる〉と
〈受け止める(力をに
がす)〉が書けていれ
ば○。

3-10-3-1 v1

3年 説明文

自転車じてんしゃの車輪しゃりん

名前

音読サイン

学校がっこうの帰り、自転車じてんしゃの後ろうしのタイヤが
ぺしゃんこになった。おして歩いていく
と、角かどの自転車屋じてんしゃやさんが出てきて、「見
せてごらん。」と言いった。

台だいに乗のせられた車輪しゃりんを、おじさんはゆ
っくり回まわした。ぼくは、そこではじめて
気がついた。車輪しゃりんには、まん中なかから外そとが
わに向むかって、細ほそい金きんぞくのぼうが何本
ものびている。

「これは、みんな同じ長ながさなんだよ。」
おじさんが一本いっぽんずつ指ゆびではじくと、どれ
も同じ高たかさの音おとがした。「一本いっぽんでもゆる
むと、まん中なかからのきよりがそろわなく
なる。そうすると、この輪わはもう丸まるくな
くなるんだ。」

なおった自転車じてんしゃをおして帰かえりながら、
ぼくは車輪しゃりんを何度なんども見みた。まん中なかから外そと
までが、どこも同じ長ながさ。それが丸まるいと
いうことなのだと思おもうと、いつもの車輪しゃりん
が、急きゅうにきれいなものに見みえてきた。

(1) 「はじく」の意味に合うものを一つえらび、
記号に○をつけましょう。
ア そつとなでる
イ 外へ引きぬく
ウ 指で強くはらって音を出す
エ 二つにおりまげる

(2) 車輪が丸なくなるのは、どんなときだと
おじさんは言っていますか。一つえらび、記号に○を
つけましょう。
ア タイヤがぺしゃんこになったとき
イ 雨にぬれたとき
ウ ぼうが一本でもゆるんだとき
エ ゆっくり回したとき

(3) 車輪の細いぼうは、何でできていますか。
文しようから三字で書きぬきましょう。

(4) 「ぼく」は、丸いとはどういうことだと
思いましたか。文しようの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--

書くときのポイント
「同じ長ながさ」という言葉ことばを使つかう。
「〜こと。」で終わらせる。

こたえ (うら)

- 問1 ウ
問2 ウ
問3 金ぞく
問4 (例) まん中から外までのきよりが、どこも同じ長さだということ。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびつたり同じなら○。
問4は〈まん中から〉と〈同じ長さ〉が書けていれば○。

3-10-3-2 v2
3年 物語文

さつまいもがあまくなるわけ

名前

音読サイン

石^{いし}やきいもは、とろけるようにあまくなります。ところが、同じ^{おな}いもを電子^{でんし}レンジ^{あた}で温^{あた}めても、あそこまであまくなりません。どうしてちがうのでしょうか。

さつまいもの中^{なか}には、でんぷんというものがたくさん入^{はい}っています。でんぷんそのものに、あまみはほとんどありません。あまくなるのは、これがべつものにかわるからです。

いもの中^{なか}には、でんぷんをあまいものにかえるはたらきをするものがあります。このはたらきがいちばん進^{すす}むのは、六十度^{ろくじゅうど}から七十度^{ななじゅうど}くらいのときで、それより熱^{あつ}くなると止^とまってしまうです。

石^{いし}やきいもは、石^{いし}の熱^{ねつ}でゆっくりと温^{あた}まります。だから、六十度^{ろくじゅうど}から七十度^{ななじゅうど}でいるあいだが長^{なが}く、でんぷんがどんどんあまいものにかわります。電子^{でんし}レンジは一気^{いっき}に熱^{あつ}くなるので、かわるひまもなく百^{ひゃく}度をこえてしまうのです。

(1) 「一気」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 少しずつ

イ しずかに

ウ あとから

エ いっぺんに

(2) でんぷんがあまいものにかわるのは、どのくらいの温度のときですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 三十度から四十度

イ 六十度から七十度

ウ 百度

エ 二百度

(3) さつまいもの中にたくさん入っているものは何ですか。文しよから四字で書きぬきましょう。

(4) 石やきいもがあまくなるのは、なぜですか。文しよの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント

「ゝから。」でおわらせる。

「ゆっくり」という言葉^{ことば}を使う。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 イ

問3 でんぷん

問4 (例) 石の熱でゆっくり温まるので、六十度から七十度でいるあいだが長く、でんぷんがあまいものにかわるから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。問4は〈ゆっくり温まる〉と〈でんぷんがかわる〉が書けていれば○。

3-10-3-3 v1

3年 説明文

ろうそくのほのおの形

名前

音読サイン

ろうそくに火をつけると、ほのおは細長く上がった形になります。ろうそくをかたむけても、ほのおの先は、やはり上を向きます。どうして、いつも上に向くのでしょうか。

ものが燃えると、まわりの空気があたためられます。あたたかい空気は、つめたい空気よりも軽いので、上へ上へとたぼっていきます。ほのおのまわりでは、いつもこの上向きの流れが起きています。

空気がたぼっていったあとには、下からつめたい空気が入りこみます。この空気が、ものを燃やすはたらきをします。下から入って上へぬけるという流れが、ほのおを細く引きのばしているのです。

空気の流れのないところでは、ほのおは丸い形になることが知られています。ふだん見ているあの上がった形は、空気の通り道が、そのまま形になったものなのです。

(1) 「かたむけて」の意味に合うものをつつえらび、記号に○をつけましょう。

ア ななめにして

イ まっすぐ立てて

ウ 水につけて

エ 二本ならべて

(2) ほのおが上にのびるのは、なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア あたためられた空気が上へのぼるから

イ ろうが上にあがるから

ウ 風が下へふくから

エ 火が明るいから

(3) 空気の流れのないところでは、ほのおはどんな形になりますか。文しゅうから二字で書きぬきましょう。

(4) ほのおのまわりでは、空気はどのように流れていますか。文しゅうの言葉を使って書きましょう。

書くときのポイント

「下から」「上へ」の両方を使う。

「流れている。」の形で書いてよい。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ア

問3 丸い

問4 (例) 下からつめたい空気が入って、あたためられて上へぬけていく。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈下から入る〉と〈上へぬける〉の両方が書けていれば○。

3-10-3-4 v2

3年 説明文

持久走の目ひよう

名前

音読サイン

十月に入って、持久走の練習がはじ
まった。五分かん走りつづけて、走った
数を数える。ぼくは足がはいほうでは
ない。はじめの練習では六周半で、組
の中では後ろのほうだった。

二回目の練習では、後ろばかり気にし
ていた。だれかにぬかれるたびに、足が
重くなる。まだ三周めなのに、走るの
をやめたくなった。

終わったあと、先生が一まいのカード
をくれた。走った数を書きこむカード
だ。「くらべるのは、となりの子ではな
いよ。この前の自分と、くらべなさい。」
ぼくはカードに、六周半と書いた。

三回目の練習で、ぼくは前だけを見て
走った。ゴールの合図が鳴ったとき、七
周を回りきっていた。じゅんいは前と
同じ、後ろのほうだ。それでもカードに
七周と書きこむ手は、少しふるえてい
た。

(1) 「ぬかれる」の意味に合うものを一つえらび、
記号に○をつけましょう。

ア 声をかけられる

イ 前に出られてしまう

ウ 名前をよばれる

エ しかられる

(2) 先生は、だれとくらべなさいと言いましたか。一つ
えらび、記号に○をつけましょう。

ア となりの子

イ 先生

ウ 組でいちばんはやい子

エ この前の自分

(3) はじめの練習で走ったのは何周でしたか。
文しようから三字で書きぬきましょう。

(4) 三回目の練習で「ぼく」の手がふるえたのは、
なぜですか。文しようの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「ゝから。」でお知らせる。

「この前の自分」という言葉を使う。

こたえ (うら)

- 問1 イ
問2 エ
問3 六周半
問4 (例) じゅん
いは前と同じで
も、この前の自分
より多く走ること
ができたから。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとび
ったり同じなら○。
問4は〈この前の自分〉
と〈多く走れた〉が書
けていれば○。

3-10-3-5 v2

3年 物語文

バッタの色

名前

音読サイン

秋の草むらでバッタをさがすと、みどり色のものと、茶色のものが見つかります。同じしゅるいのバッタなのに、どうして色がちがうのでしょうか。

バッタをねらうのは、鳥やカマキリです。上から見おろされたとき、まわりの草と同じような色をしていれば、なかなか見つかりません。バッタの色は、かくれるためのものなのです。

あるしゅるいのバッタは、育ったころのようすによって、体の色がかわるところが知られています。青々とした草の多いところで育つとみどり色になり、かれ草の多いところで育つと茶色になります。

秋がふかまると、草むらはだんだんかれています。そのころには、茶色のバッタがふえて見えます。バッタは、いつものまにかまわりの色になって、私たちの目の前にかくれているのです。

(1) 「見おろされた」の意味に合うものをつえらび、記号に○をつけましょう。

ア こわがられた

イ おいかけられた

ウ 上から見られた

エ 名前をよばれた

(2) バッタの体の色は、何によってかわると書かれていますか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 生まれた月

イ 食べたえさの量

ウ 育ったところのようす

エ オスカメスカ

(3) バッタをねらう生きものは、鳥のほかは何ですか。文しようから四字で書きぬきましよう。

(4) バッタが、まわりと同じような色をしているとよいのはなぜですか。文しようの言葉を使って書きましよう。

書くときのポイント

「しから。」でおわらせる。

「まわりの色」か「かくれる」という言葉を使う。

こたえ(うら)

問1 ウ

問2 ウ

問3 カマキリ

問4 (例) 鳥やカマキリに上から見られても見つかりにくく、かくれることができるから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈見つかりにくい〉か〈かくれる〉が書けていれば○。

3-10-4-1 v1

3年 説明文

三倍のリボン

名前

音読サイン

妹のたん生日に、リボンでかざりを作ることにした。箱の中から、赤いリボンと白いリボンを出してならべる。妹のは赤で十五センチ、わたしのは白で四十五センチに切った。

リボンをわたすと、妹は白いほうを指さして「こっちがいい。」と言った。「そっちは長すぎるよ。」と言っても、なっとくしない。長いほうがとくだと思っっているらしい。

わたしは、赤いリボンをもう二本、同じ長さに切った。三本を一本につないでゆかにおき、その横に白いリボンをおく。二つのはしは、ぴたりとそろった。「白いのは、赤いの三倍の長さなんだよ。」

妹はしゃがんだまま、しばらく赤いリボンを指でなぞっていた。それから、赤いリボンを一本だけ持って立ち上がり、「これでいい。」と言った。三倍という言葉を、目で見ただと思う。

(1) 「なっとくしない」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 声を出さない

イ わすれてしまう

ウ いそがない

エ そのとおりだと思えない

(2) 「わたし」が赤いリボンをもう二本切ったのは、なぜですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア かざりが足りなかったから

イ 白いリボンが赤いリボンの三倍だと見せるため
ウ 妹が赤をきらったから

エ 白いリボンを短くするため

(3) 白いリボンの長さは何センチでしたか。
文しようにから六字で書きぬきましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(4) 妹は、三倍という言葉をもどくようにして分かったのですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「三本」という言葉を使う。

「分かった。」の形でおわらせる。

こたえ(うら)

問1 エ

問2 イ

問3 四十五センチ

問4 (例) 赤いリボン三本をつなぐと白いリボンと同じ長さになることを、目で見分かった。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈三本〉と〈同じ長さ〉が書いていれば○。

3-10-4-2 v3

3年 物語文

落ち葉が土になるまで

名前

音読サイン

秋の林を歩くと、足もとに落ち葉があつく積もっています。木は毎年、あだけの葉を落とします。それなのに、林が落ち葉でうまってしまうことはありません。落ち葉は、どこへ行くのでしょうか。

落ち葉をそつとめくると、下からダンゴムシやミミズが出てきます。かれらは落ち葉を食べ、小さくくだいていきます。かびやきのこも、葉のかたいところをやわらかくしていきます。

小さくなった葉は、さらに目に見えない生きものにくずされて、色も形もなくなっていくます。しばらくすると、もとが葉だったとは思えない、黒っぽい土になります。

この土には、木が育つのにひつようなものがふくまれています。落ちた葉が土になり、その土でまた葉がしげる。林の中では、この行き来がくりかえされているのです。

(1) 「くだいて」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

- ア 小さくこわして
- イ 高くつみ上げて
- ウ 水に少しずつ
- エ 新しく作って

(2) 落ち葉を小さくしていくのは、おもに何ですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

- ア ダンゴムシやミミズ
- イ 風と雨
- ウ 鳥
- エ 雪

(3) 落ち葉の下から出てくる生きものは、ダンゴムシのほかは何ですか。文しよから三字で書きぬきましょう。

(4) 落ち葉は、このあとどうなっていますか。文しよの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント
「なる。」の形でおわらせる。
「土」という言葉を使う。

こたえ (うら)

- 問1 ア
- 問2 ア
- 問3 ミミズ
- 問4 (例) 生きものに食べられて小さくなり、黒っぽい土になって、また木を育てる。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈小さくなる〉と〈土になる〉が書けていれば○。

3-10-4-3 v1
3年 説明文

ヘチマのたわし

名前

音読サイン

夏^{なつ}になると、ヘチマの実^みがなります。
わかいうちはやわらかく、料理^{りょうり}に使^{つか}えます。
す。そのままにしておく^おと実^みはどんどん
大き^{おお}くなり、秋^{あき}にはかさかさにかわいて
しまします。

かわいた実^みをふつてみると、中^{なか}で音^{おと}が
します。わつてみると、あみの目^めのよう
なすじが、びっしりとつまっています。
このすじは、実^みの中^{なか}で水^{みず}を通^{とお}していた細^{ほそ}
い管^{くだ}の集^{あつ}まりです。

たわしを作る^{つく}には、まだみどり色^{いろ}の実^み
を、水^{みず}につけておきます。しばらくする
と、皮^{かわ}とやわらかいところ^{ところ}がとけてく
ずれ、手^てであらうとすじだけ^{のこ}が残^{のこ}ります。
中^{なか}のたねを出^だして、ひなたでかわかせば
できあがりです。

できあがったたわしは、水^{みず}をよくす
い、かわきも早^{はや}く、長^{なが}く使^{つか}えます。ヘチ
マの実^みの中^{なか}には、はじめからたわしの
形^{かたち}があつたのです。かわいて残^{のこ}ったの
は、実^みをささえていたほねぐみでした。

(1) 「びっしりと」の意味に合うものを一つえらび、
記号に○をつけましょう。

ア 少しずつならんでいるようす

イ すきまなくつまっているようす

ウ ゆっくり動くようす

エ 音を立てるようす

(2) たわしになるすじは、もともと何^{なに}をしていた
のですか。一つえらび、記号に○をつけましょう。
ア 実^みをあまくするもの

イ たねを作るもの

ウ 皮^{かわ}をまもるもの

エ 実^みの中^{なか}で水^{みず}を通していた細^{ほそ}い管^{くだ}

(3) 手^てであらうと、何^{なに}だけが残^{のこ}りますか。
文^{ぶん}しようにから二字で書きぬきましょう。

(4) ヘチマのたわしは、どのよう^{よう}にして作^{つく}りますか。
じゅんじよが分かるように書きましょう。

--	--	--	--	--	--

書くときのポイント

「まず」「つぎに」「さいごに」を使^{つか}って、じゅんに書^かく。
文^{ぶん}しような言葉^{ことば}をそのまま使^{つか}ってよい。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 エ

問3 すじ

問4 (例) まずみ
どり色^{いろ}の実^みを水^{みず}に
つけ、つぎに手^てで
あらってすじだけ
を残^{のこ}し、さいごに
たねを出^だしてかわ
かす。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答^{こた}えとび
ったり同じなら○。

問4は〈水^{みず}につける〉
と〈かわかす〉の両^{りょう}方^{かた}
が書^かけていれば○。

3-10-4-4 v2

3年 説明文

夕方五時のチャイム

名前

音読サイン

夏休みなつやすのころは、五時ごじのチャイムが鳴なっても、空そらはまだ青あおかった。ぼくたちは「あと一回いっかい。」と言っては、公園こうえんでサッカーをつづけていた。

十月じゅうがつのある夕方ゆうがた、同じチャイムが鳴なった。顔かおを上げると、空そらはもうだいだい色いろで、西にしのほうだけがぼんやりと明あかい。ゴールのあみが、暗くらくてよく見えなかった。

帰り道かえみち、ぼくのかげは、道みちのはしからはしまでとどきそうなほど長ながくのびていた。おかえにきた母ははが、「日ひがずいぶんみじかくなったね。」と言いった。同じ五時ごじなのに、こんなにちがうのかと思おもった。

つぎの朝あさ、ぼくはゆうとに言いった。「集合しごうを四時半よじはんにしよう。」ゆうとは少すこし考かんえて、「じゃあ、早はやく来こないとな。」と笑わらった。時計とけいの数字すうじは同じでも、外そとの明あかるさは少すこしづつかわっていく。

(1) 「ずいぶん」の意味に合うものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア ほんの少しだけ
イ いつもと同じくらい

ウ 思ったよりずっと
エ これからだんだん

(2) 十月の夕方、チャイムが鳴ったとき、空はどうなっていましたか。一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア まだ青かった
イ 雨がふっていた
ウ だいだい色になっていた
エ まっ暗だった

(3) 帰り道、道のはしからはしまでとどきそうなほど長くのびていたものは何ですか。文しよから二字で書きぬきましょう。

(4) 「ぼく」が集合を四時半にしようと言ったのは、なぜですか。文しよの言葉を使って書きましょう。

--	--	--	--	--

書くときのポイント
「ゝから。」でお知らせる。
「五時」という言葉を使う。

こたえ（うら）

- 問1 ウ
- 問2 ウ
- 問3 かげ
- 問4 （例）十月になって日がみじかくなり、五時では外が暗くなってしまいうから。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとびったり同じなら○。
問4は〈日がみじかくなった〉か〈暗くなる〉が書けていれば○。

3-10-4-5 v2
3年 物語文